劇を通して論理を育てる文学的な文章の授業作り

尾道市立高須小学校　山﨑千佐

1　はじめに

知識基盤社会の到来や，グローバル化の進展など急速に社会が変化する中，次代を担う子供たちには，幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや，他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど，変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方，近年の国内外の学力調査の結果などから，我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題がみられる。これら子どもたちをとりまく現状や課題等を踏まえ，平成１７年４月から，中央教育審議会において教育課程の基準全体の見直しについて審議が行われた。

この見直しの結果，以下の３点が学力の重要な要素として示された。

①基礎的・基本的な知識・技能

②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

③主体的に学習に取り組む態度

これらを踏まえ，平成 20 年８月に出された小学校学習指導要領解説国語編の中では，目標の後段の，「思考力や想像力」とは，「言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力のことである。」と述べている。

このことから，国語科において，論理的思考力を育成することはこれまでも大切にされてきたが，今回の改訂でさらにその重要性が強調されたと考える。

また，今回の改訂において充実すべき重要事項の第１として言語活動の充実が挙げられている。

そこで，本研究では，小学校中学年の文学的な文章における指導を通して論理的思考力をつけるために，教材と児童の実態にふさわしい「言語活動」と授業形態の工夫を考えた授業実践を考えることを目的とし，１年間を通してエキスパート研修で研究を行った。

2　研究の概要

（１）　文学的な文章の授業における論理的な思考力について

「論理的思考力」とは，課題や問題に対する考えとその根拠・理由を，想像，分析，比較，対象，推論などによって相互に関連付けて，筋道を立てて表現したり評価したりする力と考える。

国語の「読むこと」の学習に，その考えを適応させると，読みのめあてや授業１時間のめあてに対する答え，根拠となる言葉や文，その理由付けの三要素で，自分の読みを伝えていくことの力と考える。

文学教材の学習においては，文章の叙述に即して，登場人物の行動，気持ち，性格，生き方などを，想像，比較，関連付けすることによって自分の読みをより具体的なものとしていくことができる。この，具体的な読みが論理的思考力につながると考える。

（２）文学的な文章の授業における「言語活動」について

言語活動の充実を考えて授業構成を考える文部科学省から出された，「言語活動の充実に関する指導事例集」（平成 22 年 12 月）では，特に「Ｃ　読むこと」においては，指導事項に示す読むことの内容を児童に確実に身につけるため，無目的に場面ごと，段落ごとに平板に読み取らせる指導を改善することが求められている。児童自身が目的を明確にしながら読み，単元を見通しながら学習していくことができたら，国語の授業の基本の読み方を身につけさせることができるのではないかと考える。

そこで，年間を見通して，第３学年の言語活動の年間プログラムを以下のように作成した。

表１　高須小学校第３学年文学プログラム

教材名 作者名	単元でつけたい力	主な言語活動
４月 すいせんのラッパ （工藤直子　文）	●登場人物の気持ちをとらえることができる。 指導事項（ウ）	○めいたんてい○○になろう！ ・全文をおおまかにとらえ，「再話シート」にまとめる。 ・名探偵になりきって，登場人物の様子を読み取る。 ・登場人物になりきって，ふき出しに気持ちを書く。
６月 ゆうすげ村の小さな旅館 （茂市久美子文）	●登場人物の行動や会話に即しながら，それぞれの登場人物の人物像を読むことができる。 指導事項（ウ）	○ふしぎ日記を作ろう！ ・全文をおおまかにとらえ，「再話シート」にまとめる。 ・登場人物の行動や会話から人物像を読み取り，中心人物に沿ったふしぎ日記を書く。 ・読み取ったことを根拠にして，ふしぎストーリーを書く。
１０月 サーカスのライオン （川村たかし文）	●物語の中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読むことができる。 指導事項（ア）（ウ）	○「サーカスのライオン」げき場をつくろう！ ・全文をおおまかにとらえ，「再話シート」にまとめる。 ・劇を通して，物語の中心人物の気持ちの変化を読み取る。 ・最後の場面の劇のシナリオを作る。
１２月 木かげにごろり （金森襄作　文）	●時代背景の面白さに触れながら，主人公と複数の対立相手の話の展開の面白さを味わうことができる。 指導事項（ウ）（カ）	○「木かげにごろり」のげきを発表し合おう！ ・物語のおおまかな内容をとらえる。 ・劇を通して，物語のおもしろさを読み取る。 ・世界の民話を読み，感想を交流する。
２月 手ぶくろを買いに （新美南吉　文）	●登場人物の気持ちの変化や考え方の違いを読み取ることができる。 指導事項（ウ）（オ）	○対話げきをしよう。 ・全文をおおまかにとらえ，「再話シート」をまとめる。 ・対話劇を通して，登場人物の心情の変化や人間に対する考え方の相違を読み取る。 ・読み取ったことを踏まえて，家族にメッセージを書く。

（３）文学的な文章の授業における授業形態について

言語活動の充実を考えて授業構成を考える文部科学省から出された，「言語活動の充実に関する指導事例集」（平成 22 年 12 月）第２章　言語の役割を踏まえた言語活動の充実の中に，「考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること」とされ，その中で児童が，①それぞれの考えを表明し合うことでいろいろなものの見方や考えに気付くこと，②それぞれの考えの根拠や前提条件の違いや特徴を捉えること，③話し合いの後は，考えを確認しながら整理し，自分や集団の考えを振り返ることが重要であることが述べられている。

これらを踏まえ，授業の中に授業形態の工夫として，児童が必然と思える「対話」活動を仕組んでいくことを考えた。

難波博孝（2007 年）は，対話の活動について，「児童にとって，自己の考えを練る場を十分にもつことにより思考力の育成を図るとともに，児童自身が，学習始めの自己内対話と学習後の自己内対話を比較することにより，自分の成長を認識できる場ともなる。」と述べている。

すなわち，「読むこと」の力を高めるには，児童間の読みの交流を重視しなければならないと考える。授業の中で，「自分はこう読んでいる」「あなたはどう？」という児童間の交流があると，児童はもっと深く，もっと正確に教材を読んでいく。「何でそう思ったの？」「どこからそう思ったの？」と対話の中で理由を尋ねられると，教材文から根拠を見つけ出そうとする。対話は，読みの交流の手立てになると考えた。また対話を通して，相手に伝えることを考えたり，整理したりすることによって，自分自身が新しい見方や考え方を作り出すことができると考えた

そこで，本研究において対話活動を授業形態の工夫の中に取り入れた授業を仕組むことを考え，

次のような仮説を立て，検証を行うこととした。

3　研究の仮説及び検証の視点

（1）　研究の仮説

文学的な文章において，単元構成の工夫を考え，読みの目的にあった言語活動を導入し，対話活動を含んだ授業形態の工夫を行えば，文学的な文章を論理的に読む思考力を育てる国語科学習指導法を高めることができるであろう。

本研究においては，主に次の４つの視点で研究を進めていく。
①単元構成の工夫②言語活動の工夫③授業形態の工夫④論理的な思考力の見取り

（2）検証の視点とその方法

検証テスト（「読むことかくにんテスト」）及びアンケート分析（「読むことアンケート」），各授業での成果物，授業後のアンケート，単元テストを分析する。

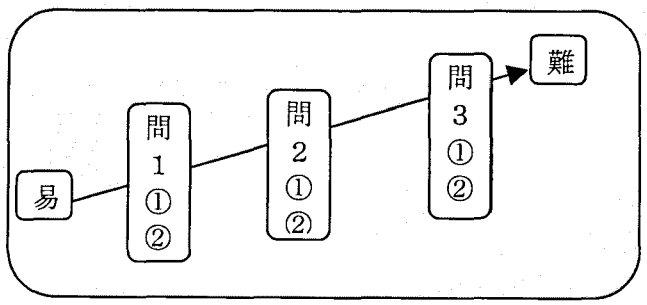
4　実態調査について

児童の実態を調査するために以下の２つで調査を行った。
実施日　平成 23 年７月
①「読むこと」についてのテスト
②国語科に関するアンケート
「読むことの確認テスト」を「ぼうしいっぱいのさくらんぼ」（花岡大学作）で作成した。問題は，別紙に示した通りである。また，設問の意図については，表２に示した通りである。

表２　設問の意図

問１①②	正しく情報を取り出すための質問
問２①②	登場人物の行動，心情についてその根拠となる箇所を探すことができる質問（解釈）
問３①②	登場人物の行動，心情についてその根拠となった文章を自分がどのように解釈するのかを考える質問（解釈）

問題の難易度については，表に示した通りである。
各問１から問３までを２問ずつ作成し，論理的思考力を見取るため，情報取り出しから解釈問題へと難易度を変えて調査を行なった。
〈問題の難易度〉



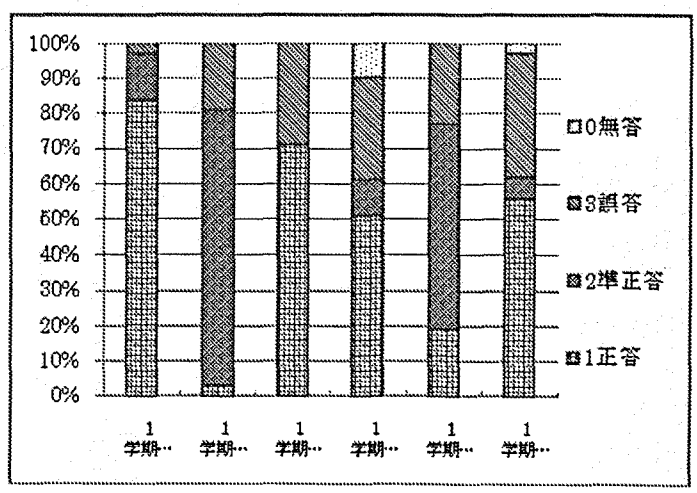


図１　第１学期の「読むことかくにんテスト」の結果グラフ

「読むことかくにんテスト」の結果を分析した。

〈問１①②：正しく情報を取り出すための質問〉

質問に対し，問１①の正しい箇所を探すことのできる児童は，80%を超え概ねできているが，②の正しく抜き出し，正答となる児童はほとんどいない。推測される主な理由は，問われていることに対しての答えの箇所は大体分かっているが，正確な箇所を答えることができていないからだと考える。

〈問２①②：登場人物の行動，心情についてその根拠となる箇所を探すことができる質問（解釈)〉

問２①根拠となる理由を探すことができた児童は 70%いた。問２②根拠となる箇所から自分の考えと結びつけながら，理由を考えることができた児童は，半数であった。しかし，無解答の児童も約 10%いた。推測される主な理由は，物語全体から登場人物の気持ちを考えることができにくいと考える。

〈問３①②：登場人物の行動，心情についてその根拠となった文章を自分がどのように解釈するのかを考える質問（解釈)〉

問３①文章に関連付けて自分の考えが書けている児童がほとんどいない。問３②文章全体を読み取ってから登場人物の行動を考えられる児童が半数しかいない。推測される主な理由は，登場人物の気持ちを考えた上で，自分の意見として読むことが難しかったからだと考える。

以上のように「読むことかくにんテスト」の分析を行った。

次に児童の国語に対する意識を調査するため「読むことアンケート」を行った。

表３　アンケート内容

	質問内容
1	本を読むことが好きですか？嫌いですか？
2	国語が好きですか？嫌いですか？
3	物語の勉強が好きですか？嫌いですか？ ・今までの物語の学習で好きだった活動 ・今後物語の学習でしたい活動
4	グループで話し合うことが好きですか？嫌いですか？
	自由記述

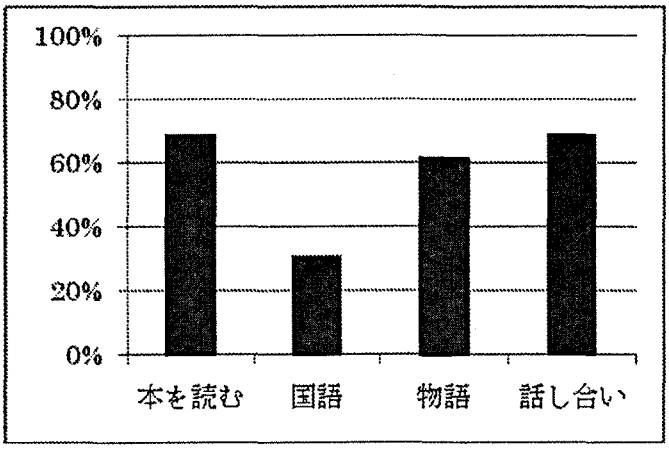


図２　第１学期「読むことアンケート」の結果

「読むことアンケート」の結果を分析した。

全体的に「読むこと」に関する意識は低く，80%を超える項目はない。一番低かったのが，国語に関する項目である。全体の３分の２の児童が国語を嫌いだと思っている。アンケート項目３で，国語の授業の中で，今までやった活動の中で楽しかったと思っている活動とやりたい活動についても尋ねた。その結果，①劇，②音読をすること，③続き話を考えること，④日記を書くことと答えている。今までやった劇の中では，１年生の１学期にやった「おおきなかぶ」の劇をあげている。低学年の同化体験の大切さを感じた。アンケートの結果を含め児童のやりたい言語活動と結びつけた結果，「劇」を中心に文学的な文章の学習を進めていくことした。

次に，「読むことかくにんテスト」と「読むことアンケート」のアンケート結果についてクロス集計を行なった。

〈アンケートクロス集計から見えるもの〉

○国語は嫌いだけれど，物語は好きだと答えた児童が，38%おり，物語が好きで国語は嫌いだと答えた児童は７%と少ない。

○話し合い活動が好きな児童は69%いる。国語が好きで話し合い活動が嫌いな児童は３%しかいない。このことから，国語が好きな児童は話し合い活動が好きな児童が多い。
○㋐，㋑のように，正答率も高く，「読むこと」に関する意識も高い児童が１０人，全体の３４．８%いる。
○㋐のように，正答率は高くても，「読むこと」の意識が０で意識が低い児童が３人，全体の１０%いる。
○必ずしも，意識が低いから読むことのテストができないとは限らない。
以上のような調査結果から，次のような授業方針の策定を行なった。
・文章全体を読み取らせていくために，第１次の指導で文章全体を読み取ることができる言語技術シート（「再話シート」や「物語の分析シート」）を取り入れる。
・国語科を好きになるように，自分たちがやりたいと思っている「劇」の活動を言語活動の中心にして指導を行う。

5　研究授業の実際

①から④までの研究を３つの研究授業を通して検証する。３つの授業に関しての実践は以下の通りである。

（１）実践１

単元名「人物の気持ちを考えながら読もう」
主教材『サーカスのライオン（東京書籍）』
単元の目標
○物語の中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読むことができる。
○読み取ったことを劇に表し，感じ方の違いに気付くことができる。
【中心となる言語活動】
第１次　言語技術シートの完成
第２次　お気に入り場面を劇にしよう
第３次　最後の場面の劇を作ろう
児童の意欲を高めるために，児童がやりたいと思っている「劇」を言語活動の中心に考えた。
「サーカスのライオン」の劇をどのように作っていくのか考えた。自分たちで劇を作るのは初めてである。劇をすることが目的でなく，劇をしながら読み取りをすることが目的であることから，第1次で物語の構造分析を行い，自分たちがやりたいところを探させる。台詞は教科書に付箋紙を貼り，シナリオを作っていくことにする。劇をすることに目的意識を持たせるため，８班でオーディションを行うこととした。
今回の劇を作っていく上での約束を次のように示した。

＜劇の 10 のやくそく＞
① ５分以内に演じる。
② 「会話文」には必ず言葉を付け加える。
③ ナレーションは，声の工夫をする。
④ 教科書は２Ｐ以内にする。（心に残ったところを参考に考える）
⑤ 音の工夫をする。（自分の持ち物で音を出す）
⑥ 地の文は，すべて入れる（ナレーションが工夫して言う）
⑦ 発表の前におススメのポイントを２個以内で言う。
⑧ 劇をする人は，最後まで笑わないでする。（笑ってもらう）
⑨ 友だちのよいところを見つける。
⑩ みた人は，しっかり拍手をする。

【授業形態】

第２次　グループ対話（３人～４人）で劇を作る。

指導計画（全１０時間）

次	時間	学習内容
第一次	① ② ③	①挿絵の分析から物語を想像し，範読を聞く。 ②「再話シート」の記入をする。 ③「構造分析シート」に物語の構造分析を入れ，じんざの心情曲線を描く。 ・じんざの気持ちが一番高まったところを高くして，心情曲線を書く。 ・一番気持ちが高まったところを一箇所決める。 ・決めた理由を書く。 ・曲線にする。 自分で考え，物語の構造を思い思いの曲線で表す。理由を書き入れる。
第二次	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	④構造分析シートの中に，心に残ったことを書き，クライマックス部分を考える。 ⑤劇をするための役割分担を考える。 ⑥～⑦　班ごとに，じんざの気持ちの変化を劇にする。 ⑧予選オーディションを行う。
第三次	⑨ ⑩	⑨最後の場面の劇を考える。 ・シナリオを書きこむ。 ⑩じんざと文通をする。 ・じんざ，ライオンつかいのおじさん，男の子の３人の登場人物の吹き出しを考えていくことで，最後の場面を学級全体で最後の場面の劇を考える。

〈授業を終えての成果と課題〉

①単元構成の工夫

〈成果〉

第一次において，言語技術シートを作成させた。そうすることによって，文章全体を読み取ることができた。

〈課題〉

第三次の活動が，個の活動が中心となった。

②言語活動の工夫

〈成果〉

劇をするために好きな場面を選ぶ活動の中で，登場人物の気持ちを考えることができた。

〈課題〉

対話で進められていくため，個々の活動の詳細に関して評価が難しかった。

③授業形態の工夫

〈成果〉

班で１つのものを作る活動であるから，必然の対話がなされた。

〈課題〉

なし

④論理的な思考力の見取り

〈成果〉思考の流れが，個→グ→全と行われた。いろいろな思考をさせることができた。

〈課題〉

個々の関わり方が十分に理解できていなかった。

以上のような成果と課題を受け，次の授業を行なった。

（２）実践２

単元名「世界の民話を読もう」

主教材『木かげにごろり（東京書籍）』

単元の目標

○世界の民話を読んで，民話のおもしろさを味わう。

○自分の役割で読み取ったことを，登場人物になりきって劇で表現する。

【中心となる言語活動】

第１次　言語技術シートの完成

第２次　お気に入り場面を劇にしよう

第３次　世界の民話を読もう

高須小学校では，毎年１２月全校による読み聞かせ会を実施している。３学年は６学年と交換会を行う。今年度は，国語科で行っている「木かげにごろり」を，地主・お百姓・地の文にわかれて分担し，劇を行う。お百姓たちが欲張りな地主に対して，地主の論理の逆手を取りながら懲らしめていく。その面白さを，登場人物になりきりながら，劇を通して表現させていく。学級３１人を２つに分け，地主・お百姓・ナレーションにわかれて分担し，劇を行う。自分の立場を演じることで，さまざまな登場人物については，交流を通して読み取らせていった。

「サーカスのライオン」の劇を参考に，今回も劇を作っていく上での約束を次のように示した。今回は，時間が長くなり人数も増えた。

【授業形態】

第２次

各チーム地主，お百姓，ナレーションチームに分け，それぞれ５人（６人）チームとする。

チームごとに，自分たちの分担された文章について劇を考える。

〈劇の１０のやくそく〉
①１チーム１５人（１６人）で，３つに分けて役割を演じる。
②「会話文」には必ず言葉を付け加える。
③ナレーションは，声の工夫をする。
④教科書全体を，１５分以内に演じる。
⑤音の工夫をする。（自分の持ち物で音を出す）
⑥地の文は，すべて入れる。（ナレーションが工夫して言う）
⑦発表の前におすすめのポイントを２個以内で言う。
⑧劇をする人は，最後まで笑わないでする。（笑ってもらう）
⑨友だちのよいところを見つける。
⑩観た人は，しっかり拍手をする。

指導計画（全１０時間）

次	時間	学習内容
第一次	① ② ③	①民話や外国の話について知っていることを話し合う。 ②学年全体で「再話」を行う。 ・範読を聞いた後，再話の質問をクイズ形式で行うことを伝えて範読をする。 ③劇をするための，役割分担を考える。 「サーカスのライオン」で学習したことがいかされて，自分たちでシナリオ作りを始めた。役割ごとに，言葉を考えていく。役割が決まっているので，考えが深まっていった。役が決まるとすぐに「付箋紙を下さい。」から始まり，サーカスのライオンの時に学んだことを活かすことができたようである。
第二次	④ ⑤ ⑥ ⑦	④⑤⑥劇練習をする。 ④各グループで練習 　１５分間…Ａ，Ｂ－役割 　１５分間…Ａ，Ｂで読み合わせ

		１５分間…全体交流 おすすめとお悩みタイム 演じていて困ったことやうまくいったことの交換会を行い，自分たちの劇に役立たせる。 ⑤⑥各グループで練習 ２０分間…Ａ，Ｂで読み合わせ 動きもつける。 １５分間…お互いの劇を見あう。 １０分間…劇を見あって，アドバイスタイム（使わせて欲しいところと変えた方がよいところ） 全体で出し合いながら，劇を通して読み取りをしていく。 ⑦読み聞かせ会 ６年生に聞いてもらい，感想を言ってもらう。教室に帰って振り返り，感想を書く。 ⑧学年オーディションを行う。 ３つの視点で劇を観賞する ・登場人物の台詞に着目する ・動作の工夫に着目する ・音の工夫に着目する
第三次	⑨ ⑩	⑨⑩世界の民話を読んで紹介カードに書く。 教科書に載っている数冊の読み聞かせを行った上で紹介カードを作成し，読書活動を行う。

〈授業を終えての成果と課題〉

①単元構成の工夫

〈成果〉

言語技術シートを作成する中で，文章全体を読み取ることができた。

前回の授業が生かされ，やるべきことが分かっていて，取り掛かりが早かった。自分たちで学習の見通しを持つことができるようになった。

〈課題〉

特になし

②言語活動の工夫

〈成果〉

登場人物の気持ちと動きを考えるのに，本文を手掛かりとして考えることができた。劇をすることによって登場人物の気持ちが読み取れるようになってきた。

目的（読み聞かせ会と学年オーディション）がはっきりしていたので意欲的に取り組んだ。

〈課題〉

劇をする活動に多く時間を割いた。読み取ったことを検討する時間がもう少しあってもよかった。

③授業形態の工夫

〈成果〉

班で１つのものを作る活動であるから，必然の対話がなされた。

同じ立場の役同士で台詞や動作，音等を考えることができた。同じ立場同士であったので考えが深まったようだ。

〈課題〉

自分以外の登場人物についてどのくらい読み取れたのか図ることが難しかった。

④論理的な思考力の見取り

〈成果〉

役割がはっきりしていたので，自分の役と他の役がどのように違っているのか対話によって気付くことができた。

思考の流れが，個→グ→全と行われた。いろいろな思考をさせることができた。

〈課題〉

劇の中で，どのように演じていれば内容が深く読み取れているのか，児童の意識付けが十分でな

かった。

（３）実践３

単元名「場面の様子を思いうかべながら声に出して読もう」

主教材『手ぶくろを買いに（東京書籍）』

単元の目標

○読み取ったことをもとに，対話劇をする。

○読み取ったことをもとに，家族にメッセージを書く。

【中心となる言語活動】

第１次　言語技術シートの完成

第２次　対話劇をしながら母ぎつねと子ぎつねの人間に対する相違点を考える。

第３次　家族にメッセージを書く

物語文の学習で言語活動の中心に「劇」を取り入れてきた。「サーカスのライオン」や「木かげにごろり」の劇では，動きや音をつけて行ってきた。今回の「手ぶくろを買いに」の学習では，主に読んでいく登場人物の視点を決め，違う立場の友だちに質問をしていくことで，読みを深め必然的な対話を組織していった。また，お互いの意見を交流することで人間に対する考えの違いを見つけ，キーワードで表すという活動を仕組む。このことによって，活動に目的を持たせていく。

〈劇の１０のやくそく〉
①１チーム４人で，母ぎつねと子ぎつねに分けて役割を演じる。
②会話文は２箇所にする。
③同じ立場同士で相談するのはよい。
④「会話文」には必ず言葉を付け加える。
⑤違う立場の会話に対して必ず質問をする。
⑥自分がどうしてそう考えたのか，理由が言えるようにする。
⑦相手に気持ちが伝わるように，話し方を考えて伝わる。
⑧自分の立場とどこが違うのかを見つける。
⑨対話劇のときは，最後まで笑わないでする。
⑩友だちのよいところを見つける。

【授業形態】

第２次

班の中で，母ぎつねと子ぎつねに分かれて対話劇を行う。（２人対２人）

パターン１

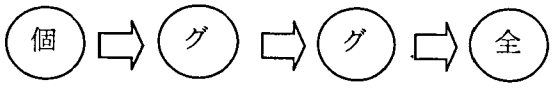
個で会話文に言葉を付け加える。

パターン２

同じ立場同士交流した後，違う立場と対話をする。違う立場に対して，疑問に思ったところを質問し合う。

パターン３

全体で交流しながら，２人の相違点についてキーワードで表し，自分の言葉で相違点についてまとめる。



この学習形態を繰り返して行う。

指導計画（全８時間）

次	時間	学習内容
第一次	① ② ③	①挿絵の分析から物語を想像し，範読を聞く。 ②言語技術シート（「再話シート」）を作成し，登場人物・季節・場所・出来事について大まかに物語をとらえる。 ③言語技術シート（「物語の構造分析シート」）を作成し，大まかな場面をとらえる。 心に残ったと児童があげている箇所をランキングで表し，物語の構造分析の話の盛り上がりについて考える手立てとする。 ① 子ぎつねが一人で町に行くところ ② 子ぎつねが間違えた手を出しても帽子屋さんが手ぶくろを売ってくれたところ ③ 子ぎつねが人間のお母さんの声を聞いて森に帰るところ ④ お母さんが「人間って本当にいいものかしら・・・」とつぶやくところが出された。
第二次	④ ⑤ ⑥	④町に行くまでのきつねの親子の気持ちを対話劇に表す。 ⑤町での子ぎつねの気持ちを対話劇に表す。 ⑥町から森へ帰ってきたときの親子のきつねの気持ちを対話劇に表す。 児童が作成した読み取った学習のシート ④⑤⑥のキーワードの変化（例） ④人間はこわい？ ⑤人間はやさしい？ ⑥人間はこわくない？
第三次	⑦ ⑧	⑦学習したことをもとに，家族にメッセージを書く。 ⑧交流を行う。

①単元構成の工夫

〈成果〉

言語技術シートを作成し，物語の全体を読み取ることができた。また，構造分析を行うことで，主題に迫る箇所を見つけることができた。

学習の構成が分かってきた。やるべきことが分かっていて，取り掛かりが早かった。自分たちで学習の見通しを持つことができた。

〈課題〉

対話劇のやり方に戸惑った。

②言語活動の工夫

〈成果〉

対話劇で言語活動を行った。目的とねらいが明確であった。

〈課題〉

読み取った相違点をキーワードや文章で表した。全体で検討する時間が短かった。

③授業形態の工夫

〈成果〉

立場を変えて対話劇をすることにより，相手の立場を理解しようと，対話の中で質問をすることができた。

２つの立場を考えることによって，登場人物の立場の違いを見つけることができた。

〈課題〉

個→グ→全の流れ授業形態を行った。児童自身が学びの型を習得し，学習に役立てられるように指導をしなければならないと思う。

④論理的な思考力の見取り

〈成果〉

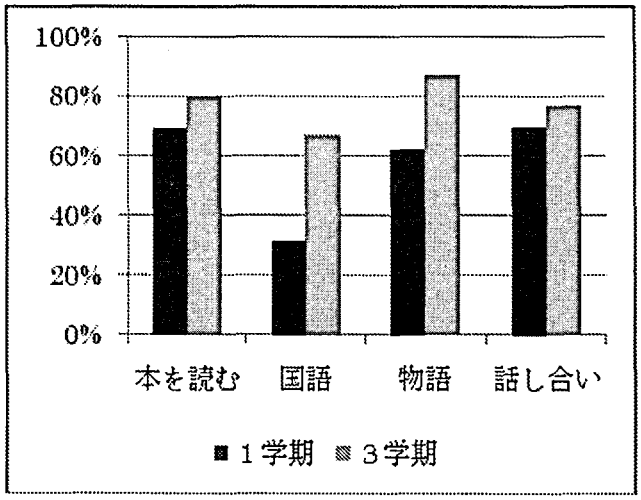
対話劇をもとに，二人の相違点を見つけ，自分の考えを書く活動を行うことで，自分がどのように考えたのか，また登場人物の気持ちの変化を見取ることもできた。思考の流れが，個→グ→全と行われた。いろいろな思考をさせることができた。

〈課題〉

質問に対して，即答で答えることが難しい児童がいた。今後の指導を考えたい。

6　研究授業の全体分析と考察

３つの授業を終え，児童に１学期に行った同じアンケートとテストから検証を行った。



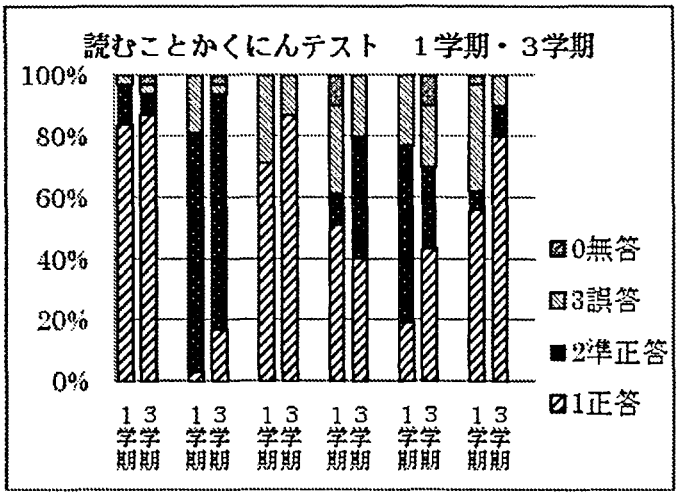


図４　「読むことアンケート」の比較について　　図５　「読むことかくにんテスト」の比較

結果から，どの項目についても意識は上がっている。また，特に国語が好きだと答えた児童は前回の調査に比べて２倍に増え，60％以上が好きになったと答えている。また，物語の学習について好きだと答えた児童は，約90％になった。

次に，「読みことかくにんテスト」の結果である。５つの項目について上がっている。無答の児童がいなくなった。特に，根拠となる文章を探したり，根拠と思う意見を読んだりすることに関して結果が上がっている。しかし，文章に関連付けて自分の考えを書く問に対しては，結果が上がらなかった。文章に関連付けて考える思考力については，今後も引き続き指導の工夫が必要と考える。

以上の結果より，文学的な文章の授業の中に，
①単元構成の工夫，②言語活動の工夫，③授業形態の工夫を取り入れれば，④論理的な思考力の見取りができ，論理的な思考力を高めることができると考えた。

（１）個に視点を当てた分析と考察

Ａ，Ｂ，Ｃ，の３人の児童の変容について調べる。３人は事前テストや読むことアンケート，国語の授業において課題を持った児童である。

Ａ児は，１学期のアンケート結果によると本を読むことも，国語も嫌いだと答えているが，物語の学習は好きだと答えていた。好きな活動は劇と答えている。国語の授業では，発表をするのは好きだが，本読みが嫌いで書くことも苦手であった。「読むことかくにんテスト」では，解釈問題ができていた。劇をすることが好きで，体いっぱい使って劇をした。友だちからもよい感想をもらい，次の劇へと生かしていくことができた。また，劇を通して苦手であった本読みやシナリオを書くことによって書くことも少しずつであるが克服することができた。

Ｂ児は，１学期のアンケート結果によると本を読むことも，国語も嫌いだと答えているが，物語の学習は好きだと答えていた。市販のテストの理解度は高いが，緊張感の高い児童で慣れるまでに時間がかかる。活動の中では話し合いが好きだと答えているが，声も小さく自分から話しかけることは少ない。特に劇では今までにないがんばった声で台詞を言うことができるようになってきた。また，班の人の意見をしっかり聞きくこともできていた。

Ｃ児は，本を読むことは好きだが，国語は嫌いだと答えている。理由としては，人の気持ちを考えることが苦手だからと答えている。物語の学習は好きだと答えているが，授業中発表することはほとんどない。なかなか自己表現が難しく，自分から考えたことを班の友だちに伝えられなかった

が，劇を作って行くときには，自分の考えた台詞や動作を伝えることができるようになった。

7　研究の成果と今後の課題

（1）実践全体についての教師の思い

○　アンケート結果から見える児童の実態を考えたとき，物語は好きであるが，国語は嫌い。国語は嫌いであるが，話し合い好き。という実態が見えてきた。難波先生のご指導で「劇」を通して物語を読み取らせるという活動を考えた。しかし，昨年度落ち着きがなく，教室からの飛び出す児童もいた実態から，授業の中に「劇」を取り入れると授業成立が難しいのではないかとも考えた。児童は，1 年生の時にやった「大きなかぶ」の劇を行い，その活動の楽しさを覚えている児童がたくさんいた。

児童に授業で「劇」をすることを伝えると大変喜んだ。低学年のときの「よかった！楽しかった！」という思いをさせてやることが，後々の活動に影響を与えることを感じた。

研究結果のアンケートや数値から分かるように，児童の国語に対する意識が上がった。国語が好きになり，自分たちで授業の過程が分かるようになってきた。

（2）研究の成果

○　文学的な文章の指導の中に，単元構成の工夫を取り入れ，第１次で文章全体を読み取らせ，第２次で主題に迫る読み取りを行った。この読み取りの中で，児童のやりたい言語活動「劇」を中心に行った。その結果，必然的な対話がうまれ，対話活動が活発になった。対話活動が活発に行われたことが，論理的思考力の向上へとつながったと考えられる。

○　単元末テストにおいて，期待得点が取れるようになり，また，無解答がほとんどいなくなった。

○　文学的な文章の指導の中に，年間計画を通して単元の目標にふさわしい言語活動を指導すれば，児童が単元構成に見通しを持ち，学習活動を習得していくことができるようになった。

（3）今後の課題

●　文章に関連付けて自分の考えを書く問いが理解できにくい児童がいる。指導の方法を考えていかなければならない。

●　児童は主体的に劇の活動を行なった。しかし，活動が同時に行われるため，個々の考えを見取ることが難しかった。評価の仕方について研修を続けなければならない。

8　おわりに

本研究では，第３学年における文学的な文章の言語活動と授業形態の工夫を取り入れ，児童に論理的思考力をつけていくことができるのかについて劇を取り入れた授業を構成し，単元構成を考えた授業研究を試みた。その結果，事後テストや単元末テストで成果をみることができた。また，事前の意識調査と比較すると，国語に対する意欲が高くなったことに驚いた。

しかし，授業形態は学年や実態によって変えていくことも必要である。この研究を引き続き行い，系統的な指導に生かしていけるよう授業実践を行いたい。

【参考文献】

井上尚美（2005）:『国語教師の力量を高める』明治図書

柴田義松/阿部昇/鶴田清司編（2003）:『あたらしい国語科指導法』学文社

田近洵一/井上尚美編（1984）:『国語教育指導用語辞典』教育出版

鶴田清司（1996）:『言語技術教育としての文学教材の指導』明治図書

難波博孝/三原市立三原小学校（2007）:『文学体験と対話による国語科授業づくり』明治図書

難波博孝/尾道市立因北小学校（2010）:『ジグソー学習を取り入れた文学を読む力の育成』明治図書

浜本純逸（1996）:『文学を学ぶ　文学で学ぶ』東洋館出版社

文部科学省（2008）:『小学校学習指導要領―国語編―』

文部科学省（2010）:『言語活動の充実に関する指導事例集』【小学校版】